

40年の歩み



報告

当組合は、戦後の復興から立ち上がり、新たな発展を目指して日本全体が活気に満ちあふれていた昭和32年、「大阪建設機械商組合」として創立いたしました。業界団体としては全国に先駆けてのものでした。

発足当時の組合員は14社であり、いまから思

組合員の技能向上

えば隔世の感がいたしますが、初代理事長姫野通雄氏のもと、念願の組合活動がスタートしたのであります。

その後、国土開発における建設の機械化の急進展にともない、必要な時に、必要な機械を、必要なだけ、利用できるレンタルの有用性が時代の脚光を浴び、建設機械リース・レンタル業界も大きく飛躍発展を遂げました。

こうした中で、昭和43年には業界の社会的・経済的地位の向上を目指して、大阪通産局（当時）認可による、中小企業等事業協同組合法に基づく「大阪建設機械リース協同組合」に改組し、名実ともに業界団体としての基盤を確固たるものとしたのであります。

副理事長 廣津 迪伸



また、昭和45年には、各地区協会との連係により、業界の全国組織である「全国建設機械リース業連合会」を結成し、初代会長に故脇田竹広氏が就任。耐用年数の短縮化、業界の登録制度の実現を目標に掲げて積極的に活動を推進いたしました。

経営基盤を強化

同連合会は現在、(社)全国建設機械器具リース業協会として、揺るぎない全国組織に発展されており、誠に喜ばしい限りであります。

昭和50年代に入り、業界がさらに安定成長を続ける中で、昭和52年には当組合の「創立20周年記念式典」を大阪コクサイホテルで盛大に開催いたしました。

50年代は、49年後期から始まった国家試験で

ある建設機械整備技能検定の推進、さらに構造改善事業などがスタートしました。特に技能検定では、当組合は実技試験の実施委託団体として組合員の技能向上を、。また第1次、第2次の構

造改善事業では、組合員の経営基盤の強化を図るため、それぞれ積極的に推進してきたところ

であります。

昭和62年、「創立30周年記念式典」を大阪ヒルトンインターナショナルで盛大に開催。

そして、平成2年には大阪府知事認可の事業協同組合として新たにスタートしており、現在、組合員138社、賛助会員31社にまで規模が拡大しております。

ちなみに、30周年以降、この10年間の最も大きな出来事は、平成7年に起った阪神大震災であります。大小のレンタル機械が活躍し、震災の復旧・復興に業界あげて貢献したことは、記憶に新しいところであります。

本日ここに、創立40周年を迎えることとなりこのように業界並びに組合が飛躍発展することができましたのも、ひとえに関係諸官庁のご指導と建設業界のお引き立の賜と厚くお礼申し上げます。

また、この40年の間、初代理事長の姫野道雄氏、2代の故脇田竹広氏、3代の故志茂坂敏氏、4代の永田仁作氏、5代の渡辺昇氏、6代の佐川重徳氏、7代で現理事長の石井毅氏と、それぞれ歴代理事長をはじめ、先輩諸氏のご尽力に対し、改めて感謝申し上げる次第です。